

木ノ本伸線株式会社



日本で初めてシャフトを生産

工具の材料メーカーである木ノ本伸線は、日本で初めて磨棒鋼（シャフト）を生産した実績をもち、業界のトップシェアを誇る。「日本のものづくりには、いい材料、いい部品がいるんです。海外工場で生産する場合でも、どこのメーカーも日本から部品を送っています」と木ノ本裕社長は語る。

例えば、部品を組み立てる際、電動化したドライバーが必要であるが、同社のシャフトで作ったビットを使え

ば、実感できるという。1日に何万回と使用してもビットが欠けることはない。

たしかに、実際のシャフトを手に入ると、質の高さを実感する。2本のシャフトを重ねて、照明の下でかざしても微光すらもれない。一寸の狂いもない証である。

木ノ本晃相談役は言う。「シャフトは基本的に回転するものなので、少しでもゆがみがあったら駄目なのです」。

このシャフトを机の上で転がすと、まったく音も無くスーッと転がっていく。シャフトから音がしたり止まったりしたところには、机の上にわずかなゴミが落ちていた。まさに「まさぐ」なのだ。

真直、真円から異形まで

円形に巻かれた鋼線を引き伸ばし、鉄の玉で磨きをかけ、金型をくぐらせる、これら一連の工程は一見すると流れ作業に感じられる。実際、同じ工作機械を使えば同じ製品ができると言う。

木ノ本社長は笑顔で答えてくれた。「ただね、機械のバランスをどうとるかには技術者の腕なんです」。真直、真円を生み出す繊細な技術は、精密で異形なシャフトまでも作り出す。「最終の製品が何かわからなくても、作ります。誰もやらないことをやってみるのが、うちのモットーですから」。

ローコストの新素材で時代のヒット商品を支える

万延元年の頃は、水車で針金を伸ばし、かんざしを作っていた。今では、眼鏡のねじを締める0・71mmの六角ドライバー、自動車のシートベ



どんな長さでもまっすぐ伸ばす



木ノ本伸線株式会社

Company Profile

住所 / 〒579-8026
大阪府東大阪市弥生町2-56
創業 / 昭和10年1月
設立 / 昭和48年7月
資本金 / 1,800万円
従業員 / 40名 (平成21年1月現在)
TEL / 072-988-1801
FAX / 072-988-2814

ISO 9001

全国18

<http://www.kinomoto.co.jp/>



木ノ本 晃さん
相談役



木ノ本 裕さん
代表取締役社長

主な事業内容

磨棒鋼・異形線の製造販売等

ルト、コピー機やプリンターのシャフトとして使用されている。連続と継承された技の蓄積が、ものづくりの底力を生んだのだ。今後は、次世代の商品を支える、環境にやさしく、かつ軽くて強いローコストの新素材を開発中だ。木ノ本社長の伸びやかな表情から自信のほどがうかがえた。